

主体的・協働的に学習に取り組む生徒の育成を目指した指導の工夫
～中学校社会科地理分野における単元を貫く主題設定とジグソー学習を取り入れて～

○概要

本実践は、学校教育の指針における社会科の指導の重点「児童生徒の疑問や驚きを基に、目指す生徒児童の姿につながる単元を貫く課題の設定、資料から読み取った様々な情報を整理し、比較・関連づけるなどして考えさせたことを、自分の言葉や図などで表現させる」という内容の中で、特に「単元を貫く課題の設定」と「自分の言葉や図などで表現させる」ことに着目し、生徒が主体的、協働的に学習し、地理的事象に対して多角的、多面的に考察できる力を育成することを目的とし、実践を行った。

目的を達成するために、中学校2年生地理分野「日本の諸地域」の大単元において、それぞれの地方の学習で、単元を貫く主題設定を行い、その主題に対しジグソー学習を行い、各グループの発表をもとに、生徒一人一人が主題に対する答えを考える活動を行った。

本実践に於けるジグソー学習とは、5人程度グループの中で、主題に対して、調べる担当を決め、それぞれのグループから調べる担当が同じになった生徒同士が協力して調べ、再びもとのグループに戻って調べたことを発表し合う活動とする。

主体的・協働的に学習に取り組む生徒の育成を目指した指導の工夫
 ～中学校社会科地理分野における単元を貫く主題設定とジグソー学習を取り入れて～

1. 実践の目的

本実践は、学校教育の指針における社会科の指導の重点「児童生徒の疑問や驚きを基に、目指す生徒児童の姿につながる単元を貫く課題の設定、資料から読み取った様々な情報を整理し、比較・関連づけるなどして考えさせたことを、自分の言葉や図などで表現させる」という内容の中で、特に「単元を貫く課題の設定」と「自分の言葉や図などで表現させる」ことに着目し、生徒が主体的、協働的に学習し、地理的事象に対して多角的、多面的に考察できる力を育成することを目的とし、実践を行った。

2. 実践の方法

目的を達成するために、中学校2年生地理分野「日本の諸地域」の大単元において、それぞれの地方の学習で、単元を貫く主題設定を行い、その主題に対しジグソー学習を行い、各グループの発表をもとに、生徒一人一人が主題に対する答えを考える活動を行った。

本実践に於けるジグソー学習とは、5人程度グループの中で、主題に対して、調べる担当を決め、それぞれのグループから調べる担当が同じになった生徒同士が協力して調べ、再びもとのグループに戻って調べたことを発表し合う活動とする。

3. 実践の経過と結果

「日本の諸地域」の学習において、九州地方、中国・四国地方、近畿地方、中部地方、東北地方、北海道地方の6地方でジグソー学習を行った。なお、関東地方に於いては、住んでいる地域ということもあり、ジグソー学習ではなく、一斉授業での学習を行った。

各地方の「主題」と主題に対する調べる内容は以下の通りである。

地方	九州地方	中国・四国地方
主題	「九州地方の暮らしを環境問題・環境保全を中心にしらべよう。」	「中国・四国地方の都市や農村で見られる問題や変化は、なぜ生じてきているのだろうか。」
調べ活動の項目	・土砂災害が多い理由と対策	・広島市が発展した経緯と過密の問題
	・水俣病の原因とその対策	・過密化による生活の変化とその対策
	・洞海湾の水質汚濁の原因とその対策	・過疎化による生活の変化とその対策
	・沖縄のサンゴ礁の死滅の理由とその対策	・本州・四国連絡橋を作ったことで起こった生活の変化
	・都市ならではの問題とその対策	
地方	近畿地方	中部地方
主題	「近畿地方で現在見られる特色のある都市や産業が発達してきたのはなぜか。」	「中部地方の3つの地域における、それぞれの産業の特色はどのようなものか。」
調べ	・大阪が発達している理由	・北陸の産業

活動の項目	・古都、京都・奈良の特色	・中央高地の産業
	・神戸の特色	・東海の産業
	・滋賀県の琵琶湖、三重、和歌山県の山地、志摩半島の産業	・中部地方と他の地域との関わり
地方	北海道地方	東北地方
主題	「北海道で、自然環境を生かした生活・文化・産業にはどのようなものがあるか。」	「東北地方の伝統文化には、どのようなものがあるか。また、なぜ継承されてきたのだろうか。」
調べ活動の項目	・札幌の様子	・「農業、漁業」について（伝統的な産業を中心に）
	・厳しい環境に適応した生活・自然を生かした生活	・工業について（伝統的な産業を中心に）
	・農業について	・年間行事・言葉・言い伝えについて
	・漁業について	・祭りや伝統行事について
	・観光業について	
地方	関東地方	
主題	「関東地方は、他地域とどのように結びついているか。」	
	・関東地方は、ジグソー学習の実施はなし	

主題および調べる項目については、本来、生徒の疑問や驚きを基に作成すべきなのであるが、時数の関わりもあり教師側から提示した。それぞれの地方の学習の流れは、おおよそ以下のような流れで行った。

1 時間目	その地方の県名の確認と自然環境について、学習プリントを用いて学習する。 （一斉授業）
2 時間目	その地域の産業（農業・工業等）について知る。（一斉）
3・4 時間目	グループ編成（教師側で指示）および調べる項目ごとの担当者を決定し、担当者ごとに調べるグループをつくり、調べ学習を行う。
5 時間目	もとのグループにもどり、発表し合う。それぞれの発表をもとに、主題に対する答えを生徒一人一人が考える。
6 時間目	単元テストを行う。

なお、必要な社会的事象についての用語等については、宿題でワークをさせることで補充した。

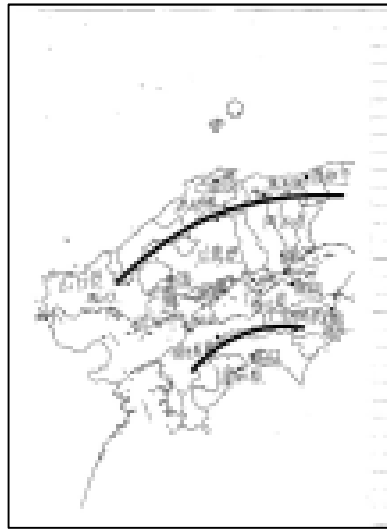
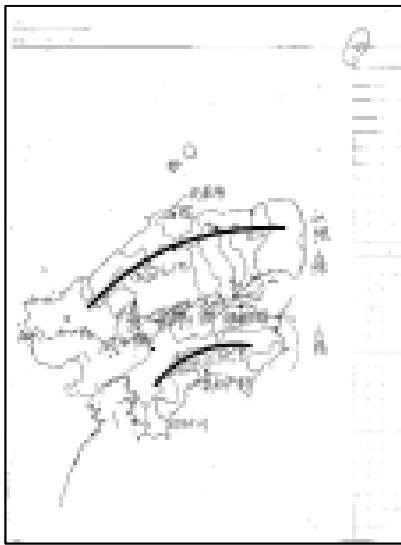
4 実践例

(1) 学習計画

指導の目標	評価規準			
	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用	知識・理解
○人口や都市・農村を中核として中国・四国地方を調べ、地域的特色を考察し理解させる。	○課題を基に中国・四国地方の地域的特色に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。	○中国・四国地方の地域的特色について主題を基に多面的・多角的に考察し、適切な言葉で表現している。	○課題を解決するための資料を適切に選択し、中国・四国地方の地域的特色についての資料を読み取ったり、まとめたりしている。	○中国・四国地方の地域的特色を理解し、その知識を身に付けている。
段階	学習計画		時間	評価項目 □…観点 ()…評価方法
つかむ	<p>○本単元の学習課題を知ると共に単元全体の活動の仕方を知る。 主題「中国・四国地方の都市や農村で見られる問題や変化はなぜ生じてきているのか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の見通しをもたせるために、活動計画について説明する。 ・中国・四国地方に興味を持たせるため、旅行に行ったことのある生徒の話を聞く。 <p>○中国・四国地方の自然環境を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中国四国地方についてのおおまかなイメージを持たせるため、各県の映像資料を提示する。 ・雨温図から、山陰、瀬戸内、南四国の気候の違いを気づかせる。 		1	<p>関中国・四国地方の地理的事象の特色について、人口と都市や村落を中心として関心を高めている。(活動状況)</p> <p>知中国・四国地方の地形、気候等の自然環境の特色を理解している。(ワークシート)</p>
	<p>○中国・四国地方の産業について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔から海上交通が盛んだった瀬戸内の港町の発展および近年の石油化学コンビナートの建設、南四国での温暖な気候を利用した促成栽培、鳥取砂丘でのらっきょうやメロンの栽培など、自然条件と関連付けて各地域の盛んな産業をワークシートにまとめる。 ・石油化学コンビナートの意味や仕組みについて、資料集を参考にして調べる。 ・各班で中国・四国地方の産業について調べる。 		1	<p>知中国・四国地方の農業、漁業、工業等の産業についての特色を理解している。(ワークシート)</p>
深める	<p>○主題「中国・四国地方の都市や農村で見られる問題や変化はなぜ生じてきているのか。」について、以下の4グループに分かれ調べる。</p> <p>①広島市が発展した経緯と過密の問題 ②過密化による生活の変化とその対策 ③過疎化による生活の変化とその対策 ④本州・四国連絡橋を作ったことでおこった生活の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4人1グループの各班から上記の①～④について調べる担当を決め、同じ課題を調べる生徒同士で再び班をつくり活動する。 ・課題ごとに必要な資料を選択し、人口の問題を中核に中国・四国地方の地域的特徴や人々の暮らしについて調べる。 		2	<p>関人口や都市、村落を中核として中国・四国地方の地域的特色を考察している。(活動状況・ワークシート)</p> <p>資主題に沿った資料を教科書、資料集から選択し、適切に読み取っている。(ワークシート)</p>

<p>まとめる</p>	<p>○元のグループにもどり自分が調べた課題について説明し合う。 ○各グループの発表内容が、中国・四国地方の地域的特殊性なのか、一般的共通性なのか全体で整理する。 ○主題の「中国・四国地方の都市や農村で見られる問題や変化はなぜ生じてきているのか。」について自分なりの言葉でまとめる。</p>	<p>1 思・課題について自分が調べたことを分かりやすく説明している。 ・主題に対する解答を自分なりの言葉で表現している。(活動状況・ワークシート)</p>
-------------	---	--

(2) 生徒のノート



1 時間目 中国・四国地方の県名及び自然環境



2 時間目 中国・四国地方の産業

<p>中国「中国・四国地方の都市や農村で見られる問題や変化は、なぜ生じてきているのだろうか。」</p> <p>都市の問題や変化とはー</p> <p>過密問題ー住宅不足、交通渋滞</p> <p>農村の問題や変化とはー</p> <p>過疎化、限界集落</p> <p>変化を促しているのは何かな。</p> <p>人口構成の転換が原因から、 働く場所⇨都市 交通機関の発達 情報の発達⇨SNSの普及</p>	<p>中国「中国・四国地方の都市や農村で見られる問題や変化は、なぜ生じてきているのだろうか。」</p> <p>都市の問題や変化とはー</p> <p>過密問題ー住宅不足、交通渋滞</p> <p>農村の問題や変化とはー</p> <p>過疎化、限界集落</p> <p>変化を促しているのは何かな。</p> <p>人口構成の転換が原因から、 働く場所⇨都市 交通機関の発達 情報の発達⇨SNSの普及</p>
---	---

3～5時間目 お互いに調べ、発表し合った内容

<p>主題 「中国・四国地方の都市や農村で見られる問題や変化は、なぜ生じてきているのだろうか。」</p> <p>都市の問題や変化とはー</p> <p>過密問題ー住宅不足、交通渋滞</p> <p>農村の問題や変化とはー</p> <p>過疎化、限界集落</p> <p>変化を促しているのは何かな。</p> <p>人口構成の転換が原因から、 働く場所⇨都市 交通機関の発達 情報の発達⇨SNSの普及</p>
--

5時間目 主題に対して考えた内容

4、まとめ（成果と課題）

（1）成果

・「日本の諸地域」の学習後に、生徒に対し「関東地方のように一斉授業の方がよかったか、ジグソー学習の方がよかったか。」というアンケートをとった。その結果、アンケート回答者 45 名中、ジグソー学習の方がよいと答えた生徒 34 名、一斉授業の方がよい 11 名という結果であった。

・ジグソー学習の方がよいと答えた理由としては、「疑問に思ったことを細かく調べられる。」「分からないところを友達に聞ける。」「自分で調べるのでしっかり覚えられる。」等、自ら主体的に学習できたり、友達と協力し合って活動できたりしていた。

・単元テストにおける、達成率は以下のものであった。ほとんどの単元で、8割以上、またはそれに近い数値であり、用語の知識を含め社会的事象についての理解も定着したように感じる。

九州地方	中国・四国地方	近畿地方	中部地方
79.5点	68.3点	77.5点	72.3点
関東地方	東北地方	北海道地方	
80.4点	80.4点	81.5点	

・生徒たちは、各単元の課題を意識しながらそれぞれ自分が担当した内容を調べることができた。また、ジグソー学習を取り入れたことで、一人一人が責任をもって調べ、表現することができた。

・各単元において、単元を貫く主題を設定し、単元の終末には、その主題に対する答えを個人で考える機会を設けたことで、ジグソー学習が単に自分の調べたことを発表し合う活動ではなく、互いの発表をもとに自ら各地方の地域的特色を説明する活動になった。

・学年全体として、自分の考えを素直に表現できる生徒が多く、活動に対して意欲的ではない生徒、作業が遅れがちな生徒がいてもそれを注意したり、助けたりできる生徒が多いため互いの活動を補い合って活動できていた。

・ジグソー学習を取り入れたため、自分の調べたことをグループ内で上手く伝えないと、友達に迷惑をかけてしまうため、調べるときのグループ内で分からないことを互いに聞き合ったり、発表内容を確認し合ったりすることができていた。

（2）課題

・ほぼすべての地方でジグソー学習を取り入れたことで生徒たちは見通しをもって活動できていた反面、ややマンネリ化した様子も見受けられた。生徒が単元を通して主体的に学習できるような、資料の提示や課題の与え方に課題が残った。

・発表を苦手とする生徒に対して、効果的な支援ができなかった。個々の活動の様子を監察し、生徒一人一人への支援の方法を充実する必要があった。

・ごく少数ではあるが、自分が説明する内容について、発表の準備や発表内容の理解がほとんどなされていない生徒がおり、その生徒の発表内容については、聞く側も理解ができないということがあった。そういった生徒に意図的に周りからの支援を促すとともに、教師の側からの支援を行う必要があった。